想定された就職面接不合格場面における反実仮想 (1)

—反実仮想の生起による分類の試み—

○政本 香・野口理英子

(松山東雲女子大学人文科学部)

キーワード：反実仮想，就職活動，就職面接試験

A classification of counterfactual thinking: In the simulated situation of failing a job-interview.

Kaori MASAMOTO, Rieko NOGUCHI

(Faculty of Human Sciences, Matsuyama Shinonome College)

Key Words: counterfactual thinking, job-hunting, job interview

目 的

就職活動は大学生にとって大きなライフイベントであり、厳しい就職活動を継続していく上で学生が抱える不安感や緊張感などの心理的状态が、就職活動に対する様々な問題に影響を及ぼす可能性が指摘されている。反実仮想(Counterfactual thinking: CFT)は、その種類によって、過去の結果への理解や判断といった認知的な側面や、後悔や安心などの感情的な側面、また、将来に同様な出来事が生じた際に失敗を回避する動機づけなどに関連していると考えられており、就職活動場面において学生が抱く CFT の特徴を明らかにすることは、学生が就職活動を実施する上で有益な基礎的知見を提供すると思われる。政本(2011)の研究では、内定への距離(一次が最終面接か)と、面接試験に向けた対処を講じたか否かを組み合わせた4条件のシナリオを用いて就職面接試験不合格場面を想定し、それに伴い生起する CFT を、方向性(上向き、下向き)と帰属性(内的、外的)の視点から検討した。その結果、就職面接試験での不合格という結果に対して、内的要因に帰属した CFT の値が最も高く、面接試験への対処行動があった場合には、対処行動がなかった場合よりも外的で下向きの CFT の値が増加した。また、面接試験への対処行動がなかった場合において、外的な要因に帰属した CFT の減少が観察された。

本研究では、就職活動場面において大学生が抱く CFT の特徴を把握するために、就職面接試験の不合格場面を想定し、CFT の生起タイプによる分類を試みるとともに、就職活動に影響を及ぼし得る個人内要因を採用してその特徴を探ることを目的とする。

方 法

対象者：私立大学に在籍する女子大学生 191 名(平均年齢=20.79, $SD=4.97$)であった。

シナリオ：シナリオは就職の最終面接試験を受けて不合格となる内容であった。また、方向性(上向き・下向き)ならびに帰属性(外的・内的)の CFT が想起し得ることに配慮してシナリオを作成した。

CFT 項目：CFT の方向性(上向き・下向き)ならびに帰属性(外的・内的)それぞれの側面を含むように、計4項目を作成した。

質問紙：対象者の個人特性を測定する尺度として、成田・下仲・中里・河合・佐藤・長田(1995)による特性的自己効力感尺度を採用した。

手続き：対象者には、シナリオを読んだ後に、CFT の項目に対して、「全くそう思わない(1)」、「そう思わない(2)」、「あまりそう思わない(3)」、「どちらともいえない(4)」、「ややそう思う(5)」、「そう思う(6)」、「非常にそう思う(7)」の7件法で回答を求めた。その後、特性的自己効力感尺度への回答を求めた。

結 果

CFT による分類：CFT の4項目の標準化得点を算出し、これを従属変数として、k-means 法による非階層型クラスター分

析を実施し、解釈可能性を考慮して4クラスターを採用した(Figure 1)。第1クラスターは43名、第2クラスターは66名、第3クラスターは34名、第4クラスターは48名であった。クラスター(4:被験者間)×CFT(4:被験者内)の分散分析を実施したところ、有意な交互作用が確認された($F(9, 561)=2.15, p<.05$)。単純主効果の検定の結果、第3クラスターにおける CFT 得点が有意であり($F(3, 561)=3.85, p<.01$)、Ryan 法による多重比較の結果、内的・上向き得点に有意に低い結果が得られた($MS_e=.79, p<.01$)。

各クラスターにおける特性的自己効力感尺度得点の差：特性的自己効力感尺度に欠損値のあった第4クラスターの2名を除く189名を対象に、平均値の標準化得点を算出し、各クラスターにおける特性的自己効力感得点の分散分析を実施したところ、有意傾向がみられた($F(3, 188)=2.55, .05<p<.10$)。

Figure 1. 各クラスターにおける CFT 項目の標準化得点

考 察

第2クラスターにおける特性的自己効力感得点は、分散分析の結果をみると有意傾向ではあるものの、他のクラスターに比べて低い可能性が示唆された。また、第2クラスターのように面接試験不合格場面において多様な CFT を生起する対象者が多いことは、政本(2011)においても確認されているものの、第3クラスターの N は第2クラスターのほぼ半数であり、これらの課題についてはデータを増やしてさらなる検討を行う必要がある。課題は残されているものの、就職面接試験不合格場面における CFT の生起による分類の可能性と、これらの分類において就職活動に影響を及ぼし得る個人内要因に異なる特徴がある可能性が示唆されたといえよう。

引用文献

政本 香(2011). 想定された就職面接試験の不合格場面における反実仮想, 松山東雲女子大学人文科学部紀要 19, 45-54.